

## 福祉ロボット推進事業実施報告書

令和5年3月30日

鈴鹿医療科学大学  
学長 豊田 長康 様

鈴鹿ロボケアセンター株式会社  
代表取締役 安永 好宏

令和4年度鈴鹿市福祉ロボット推進事業について、下記のとおり実施しましたので報告書を提出します。

鈴鹿医療科学大学の学生が訓練技師としてのスキルを習得する取組

### 各学部大学生への講義（継続事業）

- リハビリテーション学科, 鍼灸学科の学生に対して, HAL の取扱の講習を実施。

(リハビリテーション学科)

日時 令4年11月2日  
使用機材 HAL 自立支援用単関節タイプ  
講義内容 安全使用講習  
参加人数 44名



(鍼灸学科)

日時 令和4年6月9日  
使用機材 HAL 自立支援用下肢タイプ Pro  
講義内容 安全使用講習  
参加人数 28名



○看護学科の学生に対し、HALの講義を実施

(看護学科)

日時 令和4年6月30日  
使用機材 HAL 自立支援用単関節タイプ  
HAL 介護・自立支援用腰タイプ  
HAL 自立支援用下肢タイプ  
講義内容 HALについての概要、詳細、症例、鈴鹿市との取組等講義  
HALの装着体験  
参加人数 28名



## 訓練技師育成事業（継続事業）

### 鈴鹿市民に対しての訓練実施について

- 訓練技師候補生の確保、訓練技師育成のための施設、機会の充実  
各学科の HAL の取扱の講習を受講した学生の中から、実際の HAL トレーニングにて助手を選定し、より HAL の取り扱いに精通させることとした。  
10名の学生が実際にトレーニングを行った。、市民に対するトレーニング実施回数は20回であった。



- トレーニングの実施による効果検証  
訓練を受ける対象者は、市内に在住する方の中から選定。歩行速度、歩行姿勢の改善、立ち上がる速度の改善、体幹の支持力、バランス能力の向上、肘の曲げ伸ばしの自由度の改善、足関節の背底屈運動の向上などの効果が得られた。